

文化の風 南から

枕崎の芸術・文化の各分野で活躍している方々のエッセイを毎月紹介します。

私が初めて「さつま黒潮『きばらん海』枕崎港まつり」の花火打ち上げ総責任者になつたのは、28歳の時でした。今年で36歳になるので、既に9年が経とうとしています。初めての年は十数万人もの観客が訪れる祭りの総責任者という重圧から、緊張のあまり此細なことで社員を怒鳴つたりし、非常に神経を尖らせていました。

それから1年が経ち、2年が経ち、花火打ち上げ現場にも随分と慣れさせていました。その後1年が経つた。この年は十数万人もの観客が訪れる祭りの総責任者という重圧から、緊張のあまり此細なことで社員を怒鳴つたりし、非常に神経を尖らせていました。

慣れてくると、さらに創意工夫を重ね、良い意味で来場者を喜ばせたい、驚かせたいという気持ちになり、そこから生まれたのが百発一斉打ちの通称「百式」です。

私の中では、百式は不動明王の背負う烈火の炎をイメージしています。だからもう花火ではありません。我が家子を鬼から守るために常に憤怒の表情をしている退魔の象徴たる不動明王。

その怒号の炎を具現化することにより、枕崎市をあらゆる天災から守つていただけるよう、感謝と祈りを込めて毎年打ち上げています。



そして、百式と並ぶ「きばらん海」の名物といえ、九州唯一の三尺玉です。今では三尺玉1発を見つめだけに、はるばる遠方から来られる方もいるほどですが、計画段階では非常に頭を悩ませました。何故なら、統計的に三尺玉の成功率は8割だからです。つまり、5発打ち上げを行うと1発は失敗するということです。ですが、枕崎市民の皆様の寄付で成り立つ三尺玉に失敗が許される

枕崎は良い所ですね。少し住んでいました。ほぼ平坦地でバスに乗り駅前で降りたら近場はもちろん、お散歩感覚で歩けました。海がいつもキレイでピカピカ光って、左には開聞岳、右には火の神様。学校で鰯節を食せるなんて素晴らしいですね。身体にとっても良いですもんね。(鹿児島市・39歳・女性)

遠見番や瀬戸公園、あるいは耳取峠等の高台から市の全貌を見渡すのも良かですけど、最近では美術作品を見ながら街中をさるくのも良かですよ。また、枕崎の学校給食は今年の全国学校給食甲子園の決勝大会にも九州・沖縄代表で出場しました。目や舌の癒しに、いつでもお散歩しけれやつたもんせ。

● ● ●

独身時代は、正月休みに帰省するのが楽しみでしたが、今と違つて切符の確保に苦労した記憶があります。発売当日の朝早く、駅の「みどりの窓口」に並

（唱）さば節もちよつち

入れつくいやいど

（唱）さば節もちよつち

（唱）さば節もちよつち